

「第三次環境基本計画策定に向けた考え方」に対する意見

大竹千代子

人の健康・環境問題への「予防原則」適用推進の立場から意見を述べます。

○全体として

2000年の第二次環境基本計画では、1992年のリオ宣言を忠実に言葉の上で引用したにとどまっていたが、今回のまとめでは、さまざまな角度からの「予防的な施策」が議論され、取り入れられており、評価できるものと考えている。一部、経済とのバランスを唱えながら経済優先の思想が見え隠れするのが気になる。今後、環境基本計画としてだけではなく、種々の環境から受けるリスクのみならず、バイオハザード、ケミカルハザード、フィジカルハザードおよび新しい技術の伴うハザードに対応できる、普遍的な制度として「予防原則」を確立してほしい。

予防原則は、因果関係が科学的に十分証明されていなくても、しかるべき理由があれば、対策の施行を可能にする概念であり、制度である。日本のアスベスト業界は、海外より後発だったにもかかわらず、海外の知見を十分生かさず、それらを無視し、行政も深刻に捉えず、予防的規制が遅れ、現在、未曾有のアスベストによる惨事の拡大につながっている。

○各論について

ー はじめに

1 ページ下から4行目。主旨は理解できるが、「環境容量」の定義がない。これを「その時点で環境が破壊や汚染されていなければよい、許容量」のような意味で捉えるなら、環境破壊のぎりぎりまで酷使を許しかねない。実際は、環境には複数の働きかけがあり、時間的な変化も起きるので、十分な余裕をもって負荷を抑えておかなければいけない。そのため、範囲を客観的に示せない「環境容量」ということばは使わないほうがよい。したがって、1 ページ下から4行目と2 ページ上から3行目の「環境容量を超えて」を削除するか、言葉を変える。あるいは、定義する。

2 ページ上から8行目、「環境と生き生きした関係」の表現は「環境と人の暮らしの生き生きとした関係」と言う意味か。

将来世代への言及が明快で大変評価できる項目であると思う。

二 第三次環境基本計画策定に向けての現状と課題

3. 解決すべき課題

・ p 4 下から3行目から；この項目の「日常生活や一般的な事業活動に伴って発生する環境負荷の削減」は非常に重要な課題で、現在の環境問題の多くはこれに属し、多くの人が実際に危害を蒙るかあるいは危害の危険を感じ、訴えている。これを予防的方策によって解決できる仕組みを現実的に示してほしい。そのために、「環境基本計画に示されている○○の項目によって、この環境負荷を排除できる」ことが実現できる形にしてほしい。

・ p 5 上から7行目、9行目；国民が役割に応じて参加できる具体的な仕組みを示してほしい。

・ 1 4行目；科学的に因果関係が不確実な問題に対して、積極的に言及しており、今日の多くの環境問題、顕在化の恐れのあるリスクはこの手の問題であるため、こうした問題の受け皿となる窓口がほしい。たとえば、インターネット上環境省のページに「環境110番」など設ける。関連するNPOやNGOに資金を提供してそれらを調査してもらう。

・ 下から8行目；国際的な視点は、貿易の問題だけではなく、人権に対する保護のレベルの問題にも関連があり、国際レベルに近づくような種々の取り組みが必要である。

4. 持続可能な社会に向けての環境面からの理念

・ p 5 の1行目；「環境の容量」の表現を変える

・ 3行目；大変深い洞察に基づいていると思うが、「負担」は「リスクの負担」であり、さ

らに、「便益の享受」も公平であるべきである

三 今後の環境政策の展開の方向

1. 環境的側面……

・ p 8、4行目；「市場経済の中で」と限定しているが、問題によっては、市場経済を外れても資金を投入すべき場合もあるのではないか。

・ p 9、下から18行目、「先進的な」は「国内外の先進的な」としてほしい。

3. 技術開発……

・ p 12、14行目；科学的知見が根源的な不確実性を含んでいるということに基づいた施策の変更の柔軟性は、これまでになく、高く評価できる項目である。不確実性の種類と程度をよく見極め、必要な場合に、種々の圧力に屈することなく予防的な方策がとられることを強調してほしい。そのためのコミュニケーションが必要である。

・ 下から4行目；前項目と同様、生態系も不確実性の多い分野なので、予防的な方策や方策の変更が柔軟に採れるようにすべきである。

4. 政策プロセスへの……

・ p 14、8行目；評価プロセスにも国民が参画できる、日常的に稼動するシステムが必要である。現在ある環境省の「円卓会議」の地方版のようなものが全国にあって、定期的に施策を評価していれば、中央省庁の動き、たとえばこのようなパブコメが行われていることが全国に広く伝わっていくのではないだろうか。

6. 長期的な……

・ 長期的な展望がはじめて示された。まだ漠然としていて、もうすこしきめ細かな展望がほしい。むしろ、スウェーデンが行っているような問題別のタイムスケジュールを提示し、毎年、進捗状況を評価していく方法がよい。

以上です。